

事例番号:310010

原因分析報告書要約版

産科医療補償制度
原因分析委員会第一部会

1. 事例の概要

1) 妊産婦等に関する情報

経産婦

2) 今回の妊娠経過

特記事項なし

3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 31 週 4 日

時刻不明 性器出血あり搬送元分娩機関を受診

6:51 胎児心拍数陣痛図で一過性徐脈あり

7:43 切迫早産、常位胎盤早期剥離の疑いで当該分娩機関に母体搬送
となり入院

4) 分娩経過

妊娠 31 週 4 日

7:47 血液検査で白血球増加、CRP 上昇を認める

8:36 常位胎盤早期剥離疑いで帝王切開にて児娩出

子宮内容物の細菌培養検査で、メチシリン耐性コアグラーゼ陰性ブドウ球
菌、ステプトロモナス・マルティリアを検出

胎児付属物所見 羊水に悪臭あり、胎盤病理組織学検査で絨毛膜羊膜炎ス
テージ 2 と臍帯炎ステージ 3 を認める

5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:31 週 4 日

(2) 出生時体重:1500g 台

(3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 7.32、BE -2.8mmol/L

- (4) Apgarスコア:生後1分2点、生後5分3点
- (5) 新生児蘇生:人工呼吸(バッグ・マスク、チューブ・バッグ)、気管挿管
- (6) 診断等:
 - 出生当日 早産児、低出生体重児、重症新生児仮死、子宮内感染症
- (7) 頭部画像所見:
 - 生後19日 超音波断層法で脳室周囲白質軟化症を認める
 - 生後45日 頭部MRIで脳室周囲白質軟化症を認める

6) 診療体制等に関する情報

<搬送元分娩機関>

- (1) 施設区分:診療所
- (2) 関わった医療スタッフの数
 - 医師:産科医1名
 - 看護スタッフ:助産師1名、准看護師1名

<当該分娩機関>

- (1) 施設区分:病院
- (2) 関わった医療スタッフの数
 - 医師:産科医2名、小児科医1名
 - 看護スタッフ:助産師2名

2. 脳性麻痺発症の原因

- (1) 脳性麻痺発症の原因は、出生前のどこかで生じた胎児の脳の虚血(血流量の減少)により脳室周囲白質軟化症(PVL)を発症したことであると考えられる。
- (2) 胎児の脳の虚血(血流量の減少)の原因を解明することは難しいが、臍帯圧迫による臍帯血流障害の可能性を否定できない。
- (3) 子宮内感染がPVL発症の増悪因子となった可能性がある。
- (4) 児の未熟性がPVL発症の背景因子である。

3. 臨床経過に関する医学的評価

1) 妊娠経過

妊娠中の管理は一般的である。

2) 分娩経過

- (1) 搬送元分娩機関において、妊娠 31 週 4 日に痛みを伴う腹部緊満、性器出血があるとの電話連絡に対して受診を指示したこと、および受診後の対応(分娩監視装置の装着、バイタルサインの測定、超音波断層法、内診)は、いずれも一般的である。
- (2) 搬送元分娩機関において、妊娠 31 週 4 日に切迫早産、常位胎盤早期剥離疑いで当該分娩機関への母体搬送を決定したことは一般的である。
- (3) 当該分娩機関入院後の対応(分娩監視装置の装着、バイタルサインの測定、血液検査の実施、内診、腔鏡診、腔分泌物培養検査の実施)は一般的である。
- (4) 当該分娩機関において、胎児心拍数異常、常位胎盤早期剥離疑いで緊急帝王切開決定したこと、および入院から 53 分で児を娩出したことは、いずれも一般的である。
- (5) 子宮内容物の細菌培養検査をしたことは適確である。
- (6) 臍帯動脈血ガス分析を実施したことは一般的である。
- (7) 胎盤病理組織学検査を実施したことは適確である。

3) 新生児経過

新生児蘇生(バッグ・マスクによる人工呼吸、気管挿管、チューブ・バッグによる人工呼吸)は一般的である。

4. 今後の産科医療向上のために検討すべき事項

- 1) 搬送元分娩機関および当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項
 - (1) 搬送元分娩機関
なし。
 - (2) 当該分娩機関
なし。
- 2) 搬送元分娩機関のおよび当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項
 - (1) 搬送元分娩機関
なし。

(2) 当該分娩機関

事例検討を行うことが望まれる。

【解説】 児が重度の新生児仮死で出生した場合や重篤な結果がもたらされた場合は、その原因検索や今後の改善策等について院内で事例検討を行うことが重要である。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

(1) 学会・職能団体に対して

- ア. 胎児心拍数陣痛図や臍帯動脈血ガス分析値に異常を認めず、さらに出生後の経過にも異常を認めない早産児において、どの程度の頻度で脳室周囲白質軟化症がみられるのか、また、その発症機序に関する調査・研究を行うことが望まれる。
- イ. 絨毛膜羊膜炎および胎児の感染症や高サイトカイン血症は脳性麻痺発症に関係すると考えられているが、そのメカニズムは実証されておらず、絨毛膜羊膜炎の診断法、治療法はいまだ確立されていない。これらに関する研究を推進することが望まれる。

(2) 国・地方自治体に対して

なし。